

くじ引きと話し合いで 気候変動対策を提案する

研究者って どういう仕事?

～ 環境研究の最前線 ～

気候市民会議

「くじ引き」で選ばれた市民が
「話し合い」に参加して、
「ゼロカーボンの未来」を実現するために必要な
「取り組みや施策」を提言する

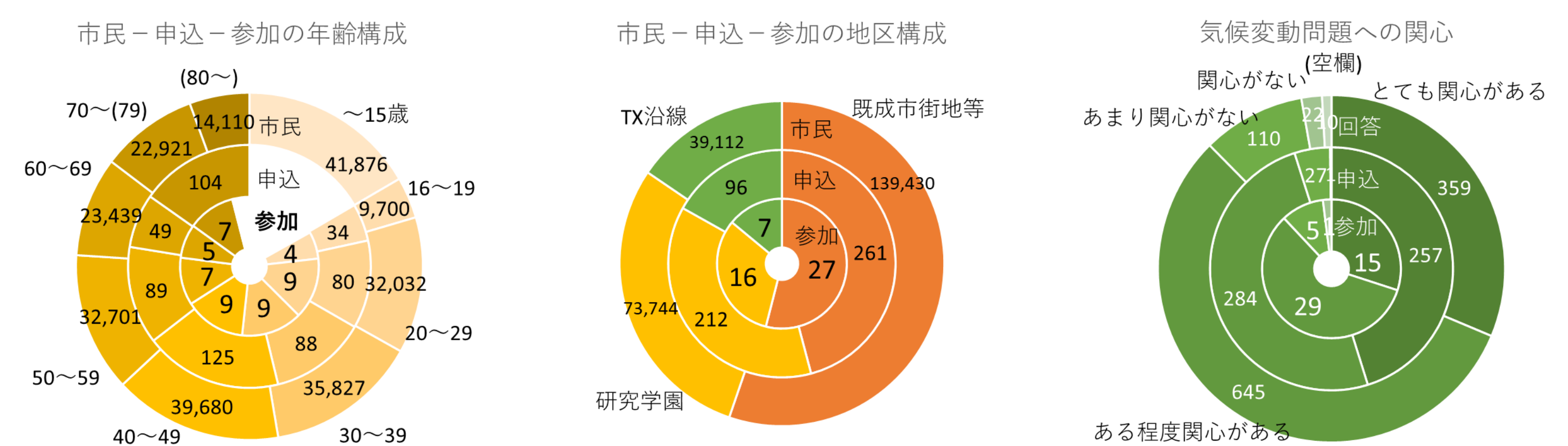
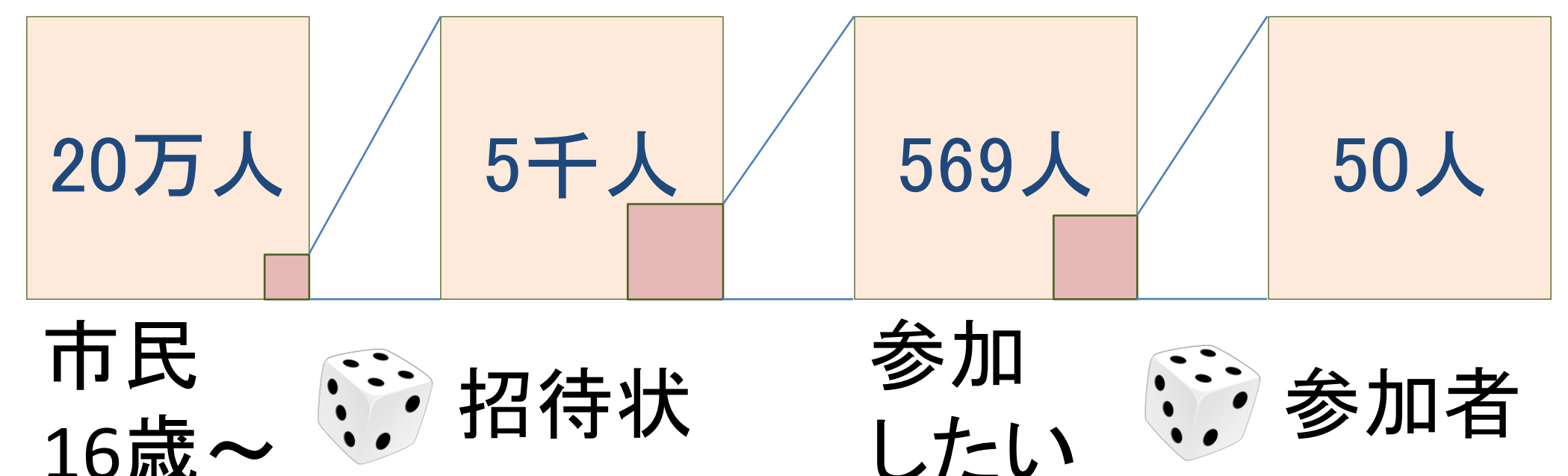
気候市民会議つくば2023

主催：実行委員会（つくば市、産総研、国環研、筑波大）
日程：2023年9月～12月、日曜日午後13-17時、6回
目的：2050年にゼロカーボンで住みよいつくば市を実現するために、
市と市民には、どのような取り組みや施策が必要となるか？
参加者：16歳以上の市民から市の縮図となるように選んだ50人



くじ引き

みんなの意見を聞きたいけれど、全員が集まることは難しい
公募だと、関心や利害の強い人たちが意見を戦わせる場になる
ミニ・パブリックス(市の縮図)を作って、共通点を探る



40代、とても関心がある参加希望が多かったが、バランスを取った
別途、広くwebでアイデア募集し(94件)、会議資料として共有

共通点を探る話し合い

参加者全員が安心して話せる場
包摂性：参加者の発言が偏りなく相互に聴かれるようにする
意見の多元性：参加者の意見が一方に偏らないようにする

少人数5～6人×9グループ
12人のファシリテーター・チーム



短い時間で情報提供
(約4～12分)×13人

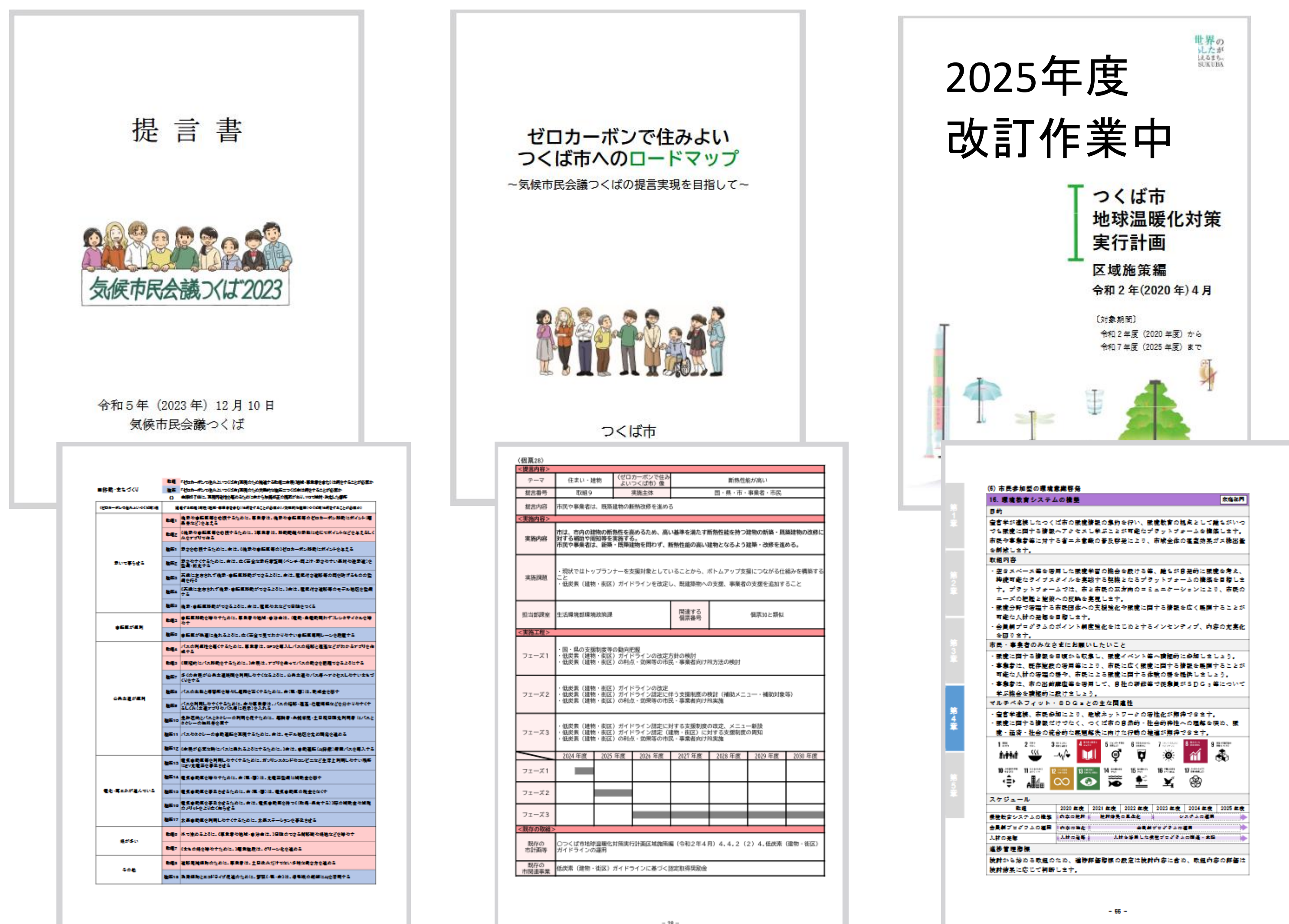


「いいね」の共感をシールで示す
共感の多い項目を提言の案にする
案をブラッシュアップする
80%以上の高い同意が得られた案を提言に採択



提案を政策に

提言を政策に反映させることを事前に約束できた
設計と運営を研究機関がリードしたことの利点
行政や市民団体の意図や都合に左右されない



発表者氏名 松橋 啓介（社会システム領域）

「ゼロカーボンで住みよいつくば市」の実現に向けた『気候市民会議つくば2023』の設計と運営に関わることは、環境システム工学とまちづくり・都市計画に関する自身のこれまでの知見を実社会に活用できる非常に良い機会であったと考えています。

